

予防接種について 《 麻しん風しん第1期・2期 》

麻しん風しん

麻しんは感染力が強く、手洗い、マスクのみでは予防できません。麻しんや風しんを予防するには、ワクチン接種が有効です。1回の接種で95%以上のこどもは、免疫を得ることができますが、つき損ねた場合の用心と、年数がたって免疫が下がってくることを防ぐ目的で2回接種(第2期)が行われるようになりました。第1期と第2期の計2回の接種を受けましょう。

麻しん(はしか)とは？

麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかります。主症状は高熱、せき、鼻汁、発疹です。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。主な合併症としては、気管支炎、肺炎、、中耳炎、脳炎があります。亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例です。医療が発達した先進国であっても、かかった方の約1000人に1人が死亡するととも重症の病気です。

風しんとは？

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状で始まり、主症状は発疹、発熱、頸部リンパ節腫脹などです。予後は一般的に良好ですが、合併症としては、血小板減少性紫斑病、脳炎、まれに溶血性貧血などです。妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害のある子が生まれてくる可能性が高くなります。

麻しん風しん(MR)混合ワクチン

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。1歳から2歳の間麻しん又は風しんにかかる可能性が高いので、1歳になったらなるべく早く1回目の予防接種を受けてください。第2期の接種は、小学校就学前1年間にある方が対象になります。(別途個別に通知します)

麻しん又は風しんにかかったお子さんも麻しん風しん混合ワクチンを接種できます。罹患していない方のワクチン(麻しんワクチン又は風しんワクチン)で接種することも可能です。

副反応

主な副反応は、発熱と発疹です。他の副反応として、注射部位の発赤・はれ・しこりなどの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。

これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応のデータから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応がまれに生じる可能性もあります。